

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300229		
法人名	医療法人社団 大法会		
事業所名	浜松市永島グループホーム耀	ユニット名	1F ユニット
所在地	静岡県浜松市浜北区永島675-1		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278300229&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の残存機能に応じた支援を心がけている。事由で、自分のペースが保てる生活を旨とし、日々楽しく過ごせるように努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定期的に運営推進会議の開催ができ、地域住民や家族との連携も円滑に行えるようになってきている。管理者は地域に溶け込むための取り組みを行い、月一回行われる地区の防災訓練やお祭り等の行事に参加している。事業所への地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。法人の他施設(病院・老健)との連携も密に行われ利用者の状況に応じて速やかに対応ができるように努めている。理念に「住み慣れた地域で、その人の思いや願いを大切にするケアを目指す」とあるように、利用者が最後まで安心して過ごせるようなグループホームであり続けるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、その人の思いや願いを大切にケアを目指す。事業所理念は見えるところに掲げている	グループホーム独自の理念を掲げ、全体会議においてその都度見直しを行い、職員の気づきがわかるようにしている。理念を職員の目に付くところに掲げ浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、草刈り、側溝の掃除に利用者と共に参加。祭典、節分の行事にも楽しく参加している。自然体で馴染めている	自治会に加入しており事業所で行う行事等を回覧板で回してもらっている。大正琴や地域住民のボランティアが来てくれたり、地元中学生の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の席で正副自治会長、民生委員に当事業所の役割等を理解して頂き、地域の方の相談も受け入れる提案をしているが、実現していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。参加者の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映している	2か月に1回開催しており、自治会正副会長、民生委員、区役所職員、地域包括支援センター、家族の方たちの参加を得ている。震災時の避難誘導についての対応なども自治会と話をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月来所している。サービスの取り組みや利用者の実情を直に見て理解してもらった上で協力関係を築いている。運営推進委員会にも毎回参加頂いている	問い合わせがあったとき区の職員に連絡を取っているが、月一回来る介護相談員や運営推進会議に出席の区担当者とはその都度話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の人権を守り、拘束しないケアを目指している。その実践のための学習は十分に出来ないのが実情。玄関は人員の体制もあって施錠することもある	幹線道路に面していたり、玄関先の駐車場に出る階段に手すりがなく職員付添いではなければ外に出られないため玄関の常時の開錠までは至っていない。	玄関先の階段に手すり等の設置など安全面に配慮され開錠時間を増やし利用者が自由に外に出られるような工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉や心理的なものも見逃さないよう職員間でチェックを行ない、防止に努めている。学ぶ機会を持っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては取り組めていない。現在制度の活用が必要である利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所から十分な説明を行った上で、利用者や家族から不安・疑問・意見を承り、理解・納得して利用の契約、解約をして頂くよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時・電話等で常に意見・要望が表せるように、日頃より信頼関係を築く努力はしている。運営推進会議は意見・要望を外部者へ表し、実現する機会を作るという役割も果たしている	運営推進会議の時の家族からの要望や、来所時の家族の話、利用者の聞き取りから、意見や要望を職員間で情報共有し、即時対応ができるように努めている。利用者からの要望で年1回から2回個人対応で外出ができるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会、ユニット会議や、必要時にはその機会を設けている。日頃から意見が出しやすい状況づくりに努めている。意見・提案については反映する努力はしているが実現できていない	管理者が話しやすい雰囲気づくりに努め意見の出しやすいようにしている。今までは月1回の全体会で話し合っていたが、今は毎日のカンファレンスの時間に入居者の情報を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者個別の担当を受け持ったり、介護以外の業務を係としてこなすなどやりがいをもって働けるよう努めている。職員個々の給与水準、労働時間への反映は芳しくない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修・講習へ参加するようにしているが、全く出来ていない。専門書、関連雑誌、その他情報は閲覧および回覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と全国のグループホーム協会に入会しており、可能な限り研修へ参加出来るよう努めているが出来ていない。同業者との交流はしばらくはない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始よりサービスがスムーズに行えるよう出来る限り情報を集め、職員間で共有している。本人の話を傾聴し、安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に対しての信頼関係が出来るよう、現状の悩み、利用の不安を聞く機会はつくっている その上で理解と協力が頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の段階での必要とするサービスを見極め、必要なら当事業所以外の法人内外のサービス事業所に相談・紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に行動することで、暮らしを共にする信頼と協力関係を築くよう努めている。役割分担がいつの間にか出来ていて自然に関係が築けてもいる。やや一方的になってしまうこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会によく来てくださる家族とは築けている。電話お便りによる報告だけの家族には、お便りに現状を伝えるコメントを載せている。あまり踏み込めない家族もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との話の中で出てきた名前・地名は家族に聞いて確認している。面会に来る人との関係は続いているが、他の人は難しい。場所へのかかわりは家族との外出で続いている。家族の意向もあって難しい	面会、外出、外泊は自由にできるようになっている。以前の仕事仲間が合いに来たり、行きつけの床屋や美容院に出掛けている。毎月自宅に定期的に外泊をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の問題は個々の様々な面を把握して良い関係で居られる環境作り、支援に努めている。介入が必要な場合は職員が間に入るが、仲良しばかりが生活ではないので関わりの理解は十分するよう努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じその後の利用サービスを生かせるよう出来る協力はしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の気づき、記録から希望・意向の把握の努力している。本人本意の支援を目指しているが本当に本人本意になっているかわからない	入浴時や洗濯物をたたんでいる時等、日常的なケアの場面を通して、ゆっくり話しをして情報収集を行い、介護日誌に記録して職員全員で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、利用していたサービス事業所から出来る限りの情報を集め職員が共用し把握に努めている。利用が始まってからも情報を得るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を理解できるよう日々の勤務の中での気づき、記録を中心にカンファレンス・会議にて情報交換し、把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者・計画作成担当者を中心に課題・問題点を見直し、カンファレンス・ユニット会議で情報交換を行い、得た情報を基に職員全員で作成している。家族からの意見・希望も柔軟に取り入れるよう努めている	利用者の担当者が中心となり、カンファレンスや全体会議等で充分話し合い、職員全員で介護計画を作成し、家族に提示して了解を得ている。利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度柔軟にプランの立て直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人ケースに記録。要約したものを介護日誌に記録している。介護日誌を見ることにより短時間で情報の共有が可能となっている。これらを基に実践や介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあればカンファレンスを行い、本人の希望に沿えるよう検討しているが実行は難しい。利用者、家族の要望には出来る限りの工夫をして対応している。また医療保険の通所サービスも利用している方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での豊かな暮らしが継続出来るよう自治会・民生委員・ボランティア・消防に連絡をとり協力を受けている。細かな地域資源の把握ができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人内の病院への受診している。家族からは概ね希望通りと信頼を得ている。同病院との連携により適切な医療を受ける環境が出来ている	利用者全員が同一法人内の病院を利用しており、月2回の往診と、訪問看護ステーションの週2回の訪問は、家族の安心に繋がっている。他医療機関への受診は、家族同行となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約、週2回の訪問の他、いつでも連絡、来所出来る体制にある。健康管理と医療的な支援を行っている。看護師との連絡ノートの活用で職員全員が情報を共有し、適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院はあまりないが、病院の医師、相談員とは日々連絡をとり情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に指針について説明し、了承した上で契約書に署名捺印して頂いている。事業所にできることも併せて説明。本人・家族の気持ちも受け入れ、ベストの選択が出来るように話し合っている。当事業所だけでなく同法人の他事業所、病院を含めて対応	入居時に「重度化した場合における対応に係わる指針」を用いて説明し、利用者・家族等の希望や意向を確認して同意を得ている。今のところ、終末期は同一法人内の病院への移送になるが、退所後の援助も希望に沿うように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は訪問看護の看護師から多少の指導を受けている。定期的な訓練は行えていないが、今後行いたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。運営推進会議で事業所の状況を説明し、災害時の協力を働きかけている。自治会の自主防のポンプ試運転に参加したりと、日頃より協力関係が出来るよう努めている	消防署協力の防災訓練を年2回実施している。訓練では、夜間想定、模擬通報訓練、消火訓練等を行い災害時の対応について全職員の周知を図っている。又、毎月1回の自主防災のポンプ試運転に参加して近隣住民との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各自、敬意を表して接しているが、時々馴れ馴れしさが度を超してしまう時もある。知らないうちに尊厳を損なう対応をしている	トイレ誘導時の声掛け等は、プライバシーに配慮しつつあるが、「慣れ慣れしさ」と「親しみ」との言葉の使い分けが職員全員には周知されていない。	尊厳やプライバシーの研修などを積み重ね、利用者、家族への声掛けの使い分けの勉強をすることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように色々な接し方をしたり、意志を表して頂けるよう傾聴・受容・共感を忘れずに対応している。本当に自己決定なのかわからない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿うようにはしているが、職員側の都合になりがち。その日の体調や状態で希望に沿えないこともあるが、その場合日を改めて支援を行っている。概ね自分のペースで過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る人はまかせ、そうでない人には促したり、介助している。散髪は訪問理容や近所の床屋で対応している。清潔が保たれるよう心がけ、季節にあった装いを勧めてみる支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望に沿ったり、たまに外食に出かけたりと食事が楽しみになるよう努めている。準備、片付け等は個々に応じ出来ることをして頂く	食事は、ユニットごとに利用者の希望を取り入れ作られている。畑で収穫した野菜や果物の食事への活用や、行事食(誕生日・お正月等)、外食は利用者の楽しみになっている。食事の準備や片付けは利用者の個々の力量に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、好き嫌いを把握した上で支援は行っている。医師と相談しつつ、本人の状態、習慣に応じた栄養摂取、水分確保の支援をしている。栄養バランスはもう少し考えてもいいと思うわれる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症の予防のためにも最低1日1回清潔保持できるよう支援している。義歯の付け置き洗浄も支援している。毎食後のみがきが出来ている人は少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄するよう、排泄の間隔時間や本人の動きなどで配慮しつつトイレ誘導の支援を行っている。間に合わないことも多い	一人ひとりの排泄パターンを把握することに努め、個々にあわせたトイレ誘導を行い失敗を最小限に抑えている。日頃の取り組みもあり、おむつからパットへ移行できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘の原因をふまえ、出来るだけ自然排便をめざして支援を行っている。運動への働きかけは身体の状態のこともあり思うように出来ていない。重度の場合は医師に相談し、薬で対応		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっていてその中で出来るだけ希望に合わせて支援している。希望がない方は職員が配慮して誘う事が多い	13:30~16:00迄、好きな時間帯に入浴でき毎日入浴する人もいる。入浴を拒む人には、誘い方のタイミングを変えて対応し、最低週3回は入浴し清潔を保てるよう支援している。異性介護にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由にして頂いている。利用者個々の生活のリズム、習慣を考慮して支援は行っている。その日の体調で必要ならば休息、睡眠を促す支援もしている。睡眠中の温度調整も行なう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬関係のファイル、使用する際の情報を記したノートを見ることによって理解できるよう努めている。効用、副作用を理解した上で状態の変化には常に気をつけ、不明なことは医師、看護師に確認、相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、日々の会話からやりたいこと、興味のあることを把握し支援。掃除、買い物、ゴミの回収等も一緒に行っている。嗜好品は医師相談して出来る限り楽しんで頂く。季節感のある行事も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	安全に配慮して外出・行楽は行っているが、一人一人の希望にそった支援は体制上難しい。家族に協力によって出かけられていることもあるが、全員ではない。地域の人々と協力しての外出は出来ていない	利用者の状態やニーズに合わせた外出支援をしている。春のお花見や秋の紅葉狩りは利用者の楽しみになっており、近所のスーパーへの買い物やドライブも行っている。また、家族の協力により、個別に出掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、了解を得ている方は自分で所持している。家族から小遣いを預かって職員が代行する方が大半。買い物は職員が同行し、本人の選択で行い支払いは職員が代行するのがほとんど		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があれば家族、相手に配慮しつつ支援している。手紙を希望される方はほとんどいない。携帯電話を持ち込まれている人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快になる音は職員各自注意して出さないよう努めている。花・装飾・展示物で季節感を出すように心がけている	リビングは南向きの明るい部屋で、風通しも良く心地良い。1階はベランダに繋がっていてベンチがあり、のんびり寛ぐことができる空間となっている。玄関やリビング、部屋には、花壇で育てた季節の花や利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファが設置されていて、利用者同士の会話や、独りになったりへの居場所として活用されているが利用される方が偏ってしまっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始が決定してから馴染んだ家具を使い、本人・家族と居室の配置等を決めている。その後も必要な物を加えたり、配置換えを行うことで、安心して過ごせる居室となるようにしている。逆に撤去することもある	利用者が居心地よく過ごせるよう、馴染みの物を自由に持ち込んでもらっている。筆筒、仏壇、トロフィー、写真、画材、絵等、各々個性のある居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々見直しと工夫は怠らずに努めている。安全を確保しつつ出来ることをやって頂いている。現状が本当に自立した生活なのか難しい		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300229		
法人名	医療法人社団 大法会		
事業所名	浜松市永島グループホーム耀	ユニット名	2F ユニット
所在地	静岡県浜松市浜北区永島675-1		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278300229&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の残存機能に応じた支援を心がけている。事由で、自分のペースが保てる生活を目ざし、日々楽しく過ごせるように努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、その人の思いや願いを大切にするケアを目指す。事業所理念は見えるところに掲げている	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、草刈り、側溝の掃除に利用者と共に参加。祭典、節分の行事にも楽しく参加している。自然体で馴染めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の席で正副自治会長、民生委員に当事業所の役割等を理解して頂き、地域の方の相談も受け入れる提案をしているが、実現していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。参加者の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月来所している。サービスの取り組みや利用者の実情を直に見て理解してもらった上で協力関係を築いている。運営推進委員会にも毎回参加頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の人権を守り、拘束しないケアを目指している。その実践のための学習は十分に出来ていないのが実情。玄関は人員の体制もあって施錠することもある。階段の施錠はやむを得ない場合のみ行なう		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉や心理的なものも見逃さないよう職員間でチェックし、防止に努めている。見直す時間は取れていない。学ぶ機会を持っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては取り組めていない。現在制度の活用が必要である利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所から十分な説明を行った上で、利用者や家族から不安・疑問・意見を承り、理解・納得して利用の契約、解約をして頂くよう努めている。また、契約後でも必要・希望があれば随時説明を行なうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時・電話等で常に意見・要望が表せるように、日頃より信頼関係を築く努力はしている。運営推進会議は意見・要望を外部者へ表し、実現する機会をつくるという役割も果たしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会、ユニット会議でその機会は設けている。日頃から意見が出しやすい状況づくりに努めている。意見・提案については反映する努力はしているが実現できていない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者個別の担当を受け持ったり、介護以外の業務を係としてこなすなどやりがいをもって働けるよう努めている。職員個々の給与水準、労働時間への反映は芳しくない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修・講習へ参加するようにしているが、全く出来ていない。専門書、関連雑誌、その他情報は閲覧および回覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と全国のグループホーム協会に入会しており、可能な限り研修へ参加出来るよう努めているが、出来ていない。同業者との交流はしばらくはない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始よりサービスがスムーズに行えるよう出来る限り情報を集め、職員間で共有している。本人の話を傾聴し、安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に対しての信頼関係が出来るよう、現状の悩み、利用の不安を聞く機会をつくっているその上で理解と協力が頂けるよう努めている以前は事前に自宅へ訪問していたが現在は行えていない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の段階での必要とするサービスを見極め、必要なら当事業所以外の法人内外のサービス事業所に相談・紹介している。事前情報から暫定のプラン作成して実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の作業を一緒に行ったり、思い出話を聞くことで、信頼関係を築き、且つ継続出来るよう努めている。利用者から教わることもあり、一定の成果は出ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会によく来てくださる家族とは情報やアイデアを頂き、良好な関係が築けている。月1回のお便りに現状を伝えるコメントを載せている。職員があまり踏み込めない事情の人もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者には自宅への外泊や思い出の場所へ出掛けている。面会に来てくださる人との関係は続いている。気兼ねなく面会・外出出来るよう家族を含めた支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席、テーブルの向きなど工夫をしている。個々の様々な面を把握して互いが良い関係で居る支援に努めている。介入が必要な場合は職員が間に入る。すべての人が快適とはいかない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じその後の利用サービスを生かせるよう協力はしている。同系列の事業所なら本人・家族との接点はあるが、そうでないと難しい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の気づき、記録から希望・意向の把握の努力している。意向を確かめるべく、本人の話はゆっくり聞くようにしている。本意として納得してもらえるまでの課程が難しい		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、利用していたサービス事業所および担当ケアマネから出来る限りの情報を集め職員が共用し把握に努めている。利用が始まってからも本人との会話、家族からの情報でいっそうの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を理解できるよう、睡眠等の前日の情報、その時の様子をふまえてケアを考えていく。有する力は日々の生活から把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設内では利用者個別の担当者・計画作成担当者を中心に見直し、カンファレンス・ユニット会議で情報交換を行い、職員全員で作成している。訪問看護、通所サービス(利用者のみ)とも常ではないが行なっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人ケースに記録、要約したものを介護日誌に記録して情報は共有している。月一回のユニット会議で情報の交換や共有、個々のケアについて話し合いを行なって実践、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあればカンファレンスを行い、本人の希望に沿えるよう検討しているが実行は難しいものもある。その時の利用者本人、周囲の環境に応じた支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での暮らしが継続出来るよう自治会・民生委員・ボランティア・消防の協力を受けている。近所の床屋、ケーキ屋を利用したり、近場の桜やひまわりを見に行ったりと何気ない日常の支援にも努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人内の病院への受診している。家族からは概ね希望通りと信頼を得ている。同病院との連携により適切な医療を受ける環境が出来ている、専門的な治療を要する場合は家族により受診して頂いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約、週2回の訪問の他、いつでも連絡、来所出来る体制にある。健康管理と医療的な支援を行っている。看護師との連絡ノートの活用で職員全員が情報を共有し、適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院はあまりないが、病院の医師、相談員とは日々連絡をとり情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に指針について説明し、了承した上で契約書に署名捺印して頂いている。事業所にできることも併せて説明。当事業所だけでなく同法人の他事業所、病院を含めた対応をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は訪問看護の看護師から多少の指導を受けているが、緊急時は電話にて指示を仰ぐことが多い。マニュアルはあるが定期的な訓練は行っておらず不安		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。運営推進会議で事業所の状況を説明し、災害時の協力を呼びかけている。自治会のポンプ試運転に参加し、日頃から協力関係に努めている。利用者の階段での移動に不安あり		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に対応は変えて接している。職員各自、敬意を表して接しているが、時々馴れ馴れしさが度を超してしまう時もある。親しみということもあり難しい		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように色々な接し方をしたり、意志を表して頂けるように対応している。行事なども無理強いにならないよう配慮。食事・入浴もなるべく伺うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿うようにはしている。職員側の都合になってしまうことも多々あるが、配慮により不満はなく概ね自分のペースで過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容で対応しているが、こだわる人には近所の床屋や馴染みの店に家族が連れて行ったりしている。ヘアピン、カチューシャをつけたり、化粧をしたりと希望するおしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望に沿ったり、たまに外食に出かけたりと食事が楽しみになるよう努めている。レベルもあり食器拭きの手伝い位しかできていないが、動いている職員を見て楽しそうにしている人もいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、好き嫌いを把握した上で支援は行っている。医師と相談しつつ、本人の状態、習慣に応じた栄養摂取、水分確保の支援をしている。好みに合わせ別メニューを用意することもある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症の予防のためにも最低1日1回清潔保持できるよう支援している。その人の習慣もあり、毎食後のはみがきが出来ている人は少ない。重要なことと理解しているが時間的なこともあり、十分な支援は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の間隔時間や本人の動き、失禁状態を把握し、トイレ誘導の支援を行っている。いやがる人には配慮しつつ支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便出来るよう、牛乳を提供等行なっている。運動への働きかけは身体の状態や意欲の低下などで思うように出来ていない。重度の場合は医師に相談その指示により、薬で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は体制上決まっている。その中で出来るだけ希望に合わせて支援している。希望でない人の場合は配慮して誘い、断られた場合は日を改める		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由にして頂いている。利用者個々の生活のリズム、習慣を考慮して支援は行っている。夜中に起きている人にも入床を強要しない。睡眠中の温度調整等で気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬関係のファイル、情報を記したノートを見ることで理解に努めている。状態の変化には常に気をつけ、不明なことは医師等に確認している。処方された薬を与薬ごとに仕分けすることでより理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の興味のあることの把握をしつつ支援をしているが十分にはできていない。掃除、買い物、ゴミの回収、畑へ収穫等一緒に行っている。季節感のある行事も行なっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁ではないが、利用者ごとに計画を立てた個別の外出で、一人一人の希望にそった支援に努めている。集団での外出は全員の希望は反映できない。家族に協力によって出かけられているが、全員ではない。地域の人々と協力しての外出は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、理解・承諾を得ている方は自分で所持している。家族から小遣いを預かり職員が管理する方が大半。買い物は職員が同行し、本人の選択で行い支払いは職員が代行するのがほとんど		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば家族、相手に配慮しつつ支援。年賀状を出す人の支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの空調は風が当たる場所が多く調節が難しい。花・装飾・展示物で季節感を出すように心がけている。花は身近に置くように心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファが設置されていて、利用者同士の会話や、独りになる居場所として活用されている。利用される方が偏ってしまっている。また、外の景色が見やすくなるよう設置場所も工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始が決定してから馴染んだ家具を使い、本人・家族と居室の配置等を決めている。その後必要な物を加えたり、配置換えする。場合によっては撤去も行なう。居心地よい居室となるように努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々見直しと工夫は怠らずに努めている。本人に「わかること」をより生かせるよう居室ネームや場所の名称を貼ったりしている。安全を確保しつつ出来ることをやって頂いている。		